

裏面白紙

昭和十一年十一月四日

立案 昭和十一年十一月四日

決裁 昭和 年 月 日

爵位課長

宗秩寮總裁

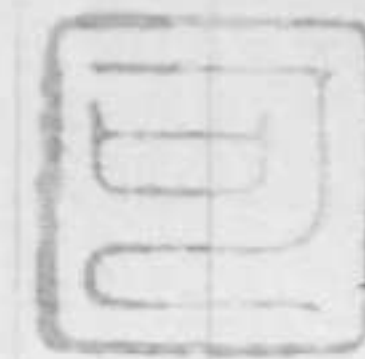
宮内事務官

故海軍大將谷口尚真位階追陞ノ件

辭令十一月一日付

昭和十一年十一月一日裁可十月廿一日達
臺帳記入十月廿四日官報報告済

宮内省



故海軍大將谷口尚真位階追陞ノ件
右謹テ裁可ヲ仰ク

昭和十六年十一月一日

内閣總理大臣東條英機

内

閣

内閣府
第七七六八

海位第二五四號

案	起
昭和十六年十一月一日	昭和十六年十一月一日
決定	裁可
昭和十六年十一月一日	昭和十六年十一月一日
施行	昭和十六年十一月一日

内閣總理大臣

内閣書記官長

並

内閣書記官

故海軍大將正三位谷口尚真別紙海軍大臣奏請ノ通功績顯著ナル者ニ候處客月三十一日死去ノ趣ニ付特ヒ日ヲ以テ左ノ通位階追陞ノ件上奏相成然ルヘシ

故海軍大將正三位谷口尚真

内

閣

特ヒ日ヲ以テ位一級追陞セラル

正三位 谷口尚真

叙從二位

十月三十一日付

敘從二位 故海軍大將正三位勳一等功四級 谷 口 尙 真

右者海軍出身以來身ヲ軍職ニ奉ズルコト三十九年其ノ間
大本營海軍參謀、米國大使館附武官、海軍軍令部參謀、
海軍大學校教官、海軍省副官、生駒艦長、常磐艦長、榛
名艦長、海軍省人事局長、馬公要港部司令官、練習艦隊
司令官、海軍兵學校長ヲ經テ大正十四年第二艦隊司令長
官ニ親補セラレ爾來吳鎮守府司令長官、第一艦隊司令長
官兼聯合艦隊司令長官、海軍軍令部長、軍事參議官ノ諸
要職ニ歷任、終始一貫克ク其ノ任ヲ盡シ功績極メテ顯著

海 軍

ナリ殊ニ日露戰役ニハ大本營海軍參謀トシテ帷幄ノ樞機
ニ參與シ又海軍兵學校長時代ニハ其ノ高潔ナル人格ヲ以
テ銳意指導訓育ノコトニ從ヒ爲ニ全校ヲ舉ゲテ良習美俗
自ラ風ヲナシ艦隊司令長官トシテハ實踐以テ部下ニ臨ミ
全將兵ノ士氣振作ニ將又術力ノ向上ニ專念シ有形無形ノ
戰鬪力ヲ培ヒ所謂内容充實ヲ具現シ得タルノミナラズ倫
敦海軍軍縮會議直後ノ難局ニ際シ海軍軍令部長ノ要職ニ
就クヤ宇内ノ大勢ヲ洞察シ苦心慘愴國防ノ基礎確立ニ腐
心シ籌策宜シキヲ得テ遂ニ帝國國防計畫上些ノ瑕疵ナカ
ラシメタル功績洵ニ大ナルモノ有之候處不幸病ニ罹リ十

美濃全葉十行算紙（富井納）

月三十一日薨去致候ニ付テハ頭書ノ通特ニ位一級追陞セラ
レ度

謹テ奏ス

昭和十六年十一月一日

海軍大臣 嶋田 繁太郎



海軍

履 歴 書

海軍大將正三位勳一等功四級

谷 口 尙 真

明治三年三月十七日生

廣 島 縣

明治廿五年 七月廿六日

海軍少尉候補生ヲ命ス

同 廿七年 七月廿五日

清國ト開戦

九月廿五日

任海軍少尉

同 廿八年十一月十八日

明治二十七八年戦役ノ功ニ依リ勳六等單光旭日章
及金百五十圓ヲ授ケ賜フ

同 三十年十二月 一日

任海軍中尉

同 卅一年 五月三十日

任海軍大尉

同 卅六年十二月廿八日

補第二艦隊參謀

同 卅七年 二月 六日

露國ト開戦

海 軍

明治卅七年 七月十三日

補海軍軍令部參謀

同 日

大本營海軍參謀被仰付

同 日

任海軍少佐

同 卅八年 五月三十日

敘勳四等授瑞寶章

十月十一日

補米國公使館附

同 卅九年 一月 七日

補米國大使館附

四月 一日

明治三十七八年戦役ノ功ニ依リ功四級金鷄勳章並
ニ年金五百圓及旭日小綬章ヲ授ケ賜フ

同 四十年 九月廿八日

任海軍中佐

十一月三十日

敘正六位

同 四十一年十二月 十日

齋朝被仰付

同 四十二年 七月 九日

補八雲副長

十月 一日

補阿蘇副長

美濃全集十三行部紙（花輪紙）

同四十四年 二月十四日

依仁親王同妃兩殿下大不列顛國皇帝陛下戴冠式爲

參列被差遣ニ付隨行被仰付

補第三艦隊附兼海軍軍令部參謀

同四十五年 一月十五日

補第三艦隊參謀

五月廿四日

敘勳三等授瑞寶章

大正 元年十二月 一日

任海軍大佐佐

同 日

補海軍軍令部參謀兼海軍大學校教官

同 二年 二月 十日

敘從五位

十一月十二日

兼補海軍省副官

十一月廿二日

大禮使事務官被仰付

十二月 一日

補海軍省副官

同 三年 八月廿三日

獨國ト開戰

同 四年十一月 七日

大正三四年戰役ノ功ニ依リ旭日中綬章及金貳千三

海 軍

大正 四年十二月十三日

補生駒艦長

同 五年 七月十五日

補常磐艦長

同 六年 九月十五日

補榛名艦長

十二月 一日

任海軍少將

同 日

補海軍省人事局長

同 七年 一月三十日

敘正五位

同 九年 九月廿九日

敘勳二等授瑞寶章

十二月 一日

補馬公要港部司令官

十一月 一日

大正四年乃至九年戰役ノ功ニ依リ旭日重光章及金

十二月 一日

三千二百圓ヲ授ケ賜フ

同 十年 八月 一日

補海軍將官會議々員

十二月 一日

任海軍中將

十二月廿八日		敘從四位
同 十一年	四月十五日	補練習艦隊司令官
同 十二年	三月一日	補海軍將官會議々員
	四月一日	補海軍兵學校長
同 十四年	九月十八日	補第二艦隊司令長官
	十月十五日	敘正四位
同 十五年十二月	十日	補吳鎮守府司令長官
昭和 二年	七月十八日	敘勳一等授瑞寶章
同 三年	四月二日	任海軍大將
	四月十六日	敘從三位
	十二月十日	補第一艦隊司令長官兼聯合艦隊司令長官
同 四年十一月	十一日	補吳鎮守府司令長官
同 五年	六月十一日	補海軍軍令部長
同 日		兼補海軍將官會議々員
同 六年	五月一日	敘正三位
同 七年	二月二日	補軍事參議官
	十月十五日	授旭日大綬章
同 八年	九月一日	依願豫備役被仰付
同 九年	四月廿九日	昭和六年乃至九年事變ニ於ケル功ニ依リ金杯一組ヲ賜フ
同 十六年	十月卅一日	薨去

海軍

海秘入第七〇八號

昭和十六年十一月一日

海軍大臣 嶋田 繁太郎

内閣總理大臣 東條 英機 殿

海軍大將 谷口 尚真 敍位ノ件別紙上奏書進達ス

(終)

海軍

美濃全葉十行露紙(宮井納)

立案 昭和十六年十一月一日
決裁 昭和 年 月 日

宿直

當番高等官

案

故海軍大將正三位勳二等功四級 谷口尚真
特旨ヲ以テ位一級追陞セラル 昭和十六年十一月一日
正三位勳一等功四級 谷口尚真
敘從二位
昭和十六年十月三十一日

宮内省

右之通本日 宣下相成候條此旨及傳達候位記竝
辭令ハ追テ可及回送候也

昭和十六年十一月一日

宗秩寮總裁

海軍大臣宛

裏面白紙

丙
三〇一號

一
救海軍大將從二位谷口尚真

右位記竝辭令及回送候條交付方御取計有之度候也

昭和十六年十一月四日

宗秩寮總裁子爵武者小路公共

海軍大臣嶋田繁太郎殿

宮内省

二號昇紙

250